

政府・東京電力中長期対策会議 運営会議 第6回会合 議事概要

日 時： 平成24年5月28日(月)10:00～11:40

場 所： 東京電力 本店 本館1201会議室

出席者： 中塚副大臣(内閣府)

【共同議長】

園田大臣政務官(内閣府), 北神大臣政務官(経産省), 相澤副社長(東電)

【顧問】

神本大臣政務官(文科省)

【委員】

朝日委員(経産省), 山下委員(東電), 山本委員(保安院), 大竹委員(文科省),
永里主幹(上塚委員代理(JAEA)), 岡村委員(東芝), 丸委員(日立)

【アドバイザー】

尾本委員(原子力委員会), 金山理事(産総研), 横山常務(電中研), 浅間教授(東大),
井上顧問(電中研), 田中教授(東大), 山名教授(京大)

議 事:

1. 冒頭挨拶

(園田政務官)

- ・ 週末に細野大臣と共に現場を視察し, 4号機の原子炉建屋, 使用済燃料プールの健全性についてしっかりと確認してきた。4号機の5階オペフロエリアに至るまでは, 大変暑く, 狭いという過酷な環境であり, 夏場に向けてしっかりと安全対策をお願いしたい。
- ・ 水漏れ対策として, 移送配管のポリエチレン(PE)管化, 水処理設備の周囲に土嚢を設置するなどしている様子も確認した。日常の設備点検と合わせて, 引き続き信頼性向上対策に努めて頂きたい。
- ・ まだまだ長い取り組みになるが, 専門家の皆さまのご指導を承りながら関係機関の各取り組みを着実に進捗させていきたい。

(中塚副大臣)

- ・ 4/23に4号機原子炉建屋を視察し, 事故の収束に向けた関係者の努力を十分に感じたが, 未だに信頼回復には至っていない。
- ・ 関係する皆さんとの連携を密にしながら, プラントの安全が国民の安心につながるよう一体となって努力を続けていきたい。

2. 第5回会合議事概要について

- ・ 事務局より, 議事概要(案)について提示があり, コメントがあれば本日午前中に事務局まで伝えることとした。

3. プラントの状況について

- ・ 1～3号機の原子炉圧力容器底部温度, 格納容器気相部温度は, 約30℃～約60℃(5/27現在)であり, 外気温の上昇に伴う注水温度の上昇に応じて, 非常に緩やかな上昇

傾向を示している。今後も上昇が想定されるため、原子炉注水設備に冷凍機を設置し、原子炉関連の温度上昇を抑制するとともに、炉注水量の抑制を図る。格納容器内圧力や格納容器からの放射性物質の放出量等のパラメータについては有意な変動がなく、総合的に冷温停止状態を維持と判断。(東電)

4. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、資料に基づき説明があり、至近の主要な課題への取り組みとして以下の内容を確認した。

<循環注水冷却>

- ・ 炉注水温度上昇への対応として、原子炉注水設備に冷凍機を設置(7/末運用開始予定)。いくつかのケースを検討しており、最短で7/末運用開始予定。運用開始までは、日よけ等の暫定対策も含めて検討。(東電)
- ・ 2号機RPV代替温度計設置に向け、アクセスルート及び作業エリアの環境改善作業(除染/遮へい設置)を行い、計画線量まで低減可能かどうか現場調査を実施し、低減可能な見通しを得た(~5/23)。(東電)
- ・ 1号機原子炉格納容器内部の画像取得やデータ直接採取(雰囲気温度、滞留水温度、水位)等を目的に、調査装置を挿入し格納容器内部の調査を実施(8/末~9/中の間の調査を予定)。(東電)
- ・ 3号機原子炉格納容器内内部調査に向けて、ロボットを利用して原子炉建屋1階移動式炉内計装系(TIP)室内の作業環境調査を実施(5/23)。吹き飛んだTIP室扉が障害となりロボットは奥まで進入できなかったが、目の届く範囲でTIP案内管を含め機器に目立った損傷は確認されなかった。今後、ドアの撤去等も含めて調査実施について検討予定。(東電)

<滞留水処理>

- ・ 4号機サブドレン浄化試験の結果、汚染レベルは代表核種で数ベクレル/L程度であることを確認。1, 2号機についても5月末までに完了予定。今後、詳細核種分析を実施、復旧・運用計画の立案に向けた課題を整理。(東電)

<環境線量低減対策>

- ・ 覆土式一時保管施設(2槽)の準備工事は、1層目が遮水シートの敷設・保護土工を完了し、雨養生用の仮設テントを組み立て中。2槽目は、遮水シートの敷設を完了し、保護土工を実施中。(東電)
- ・ 伐採木の防火対策として、巡視、温度監視、定期的な散水等を実施。夏期(6月~9月)防火対策として、巡視、温度監視の頻度増加、温度測定箇所の増加を計画。(東電)
- ・ 1~4号取水口部分の海水中放射能濃度について、長期的には低下傾向だが、海底土被覆工事終了後について顕著な低下は見られていない。継続監視するとともに、低減方策を検討。(東電)
- ・ 伐採木について、防火対策に合わせ、覆土等による線量低減対策についても実施を検討。(保安院、東電)

<労働環境改善>

- ・ 熱中症対策を2ヶ月前倒しで実施中。通気性の良いカバーオールを発注し、7/1より運用開始予定。(東電)
- ・ 4月24日より、1Fに設置した車輛のスクリーニング・除染場の試験運用を開始、15時頃に渋滞が発生し、最大1時間程度の待ち時間が生じることを確認。現在、各企業に車輛の削減への協力依頼中。(東電)
- ・ NEDOで来年3月目途に体を冷却するロボットスーツを開発中。来年度の熱中症対策として検討。(浅間教授, 東電)

<使用済燃料プール対策>

- ・ 4号機使用済燃料取り出し作業を円滑に行うための計画立案に資するため、新燃料(未照射燃料)を2体取り出し、腐食調査等を実施(7月燃料取り出し、9月調査予定)。(東電)
- ・ 1回目の4号機原子炉建屋点検として、①建物の傾きの確認(水位測定)、②建物の傾きの確認(外壁面の測定)、③目視点検、④コンクリートの強度確認を実施した結果、重要な使用済燃料プールの躯体は壁厚が厚いこともあり、ひび割れや傾きもなく、十分なコンクリート強度も確保されており、安全に使用済燃料を貯蔵できる状態にあることを確認。(東電)
- ・ 原子炉建屋外壁面の水平変位の計測から、一部の外壁で爆発による外壁面の膨らみが見られたものの、他の3箇所は小さく建物全体として傾きは無いのと思われる。局所的な変形の影響度合いを定量的に評価するため、今後解析を行う。(東電)
- ・ 原子炉建屋外壁面の膨らみについて、保安院の指示文書にもあるように、今後、①詳細な現場確認、②当該外壁面の健全性評価、③4号機原子炉建屋、使用済燃料プールの耐震安全性評価を実施し、6/29までに報告予定。(保安院, 東電)
- ・ プレゼンテーションのやり方も工夫が必要。コンクリートの強度を一般の建築物と比較する等、一般の方々の目線で、分かりやすい表現を用いて情報発信していく。(政府, 東電)
- ・ 報道関係者も含め、現場を皆さんに確認して頂き、正しい情報を繰り返し愚直に発信していく。その中で疑問点等については、その都度丁寧に説明していくことが必要。(東電)

<燃料デブリ取り出し準備>

- ・ 1～3号機原子炉建屋内のロボットを用いた汚染状況調査を実施(5/13～18)。ガンマカメラは、壁や天井等の容易に線量を測定できない場所の線源特定に活用し、より広範囲の汚染状況を調査した上で空間線量率マップを作成予定。(東電)

<放射性廃棄物処理・処分>

- ・ 作業員使用の装備品等の処理のため焼却設備設置予定。設置箇所の瓦礫移動等の事前準備を実施中(5/16～)。(東電)

5. 中長期ロードマップの進捗状況

- ・ 中長期ロードマップ進捗状況(概要版)について内容を確認。

6. その他

- ・ 運営会議では、取り組みの結果が多く報告されるが、むしろ今後の課題(現場のニーズ)をあげて頂くと解決につながる可能性があるため次回以降留意頂きたい。また、研究開

発推進本部で技術カタログを作成中であり、実際に使用した後の評価も合わせて整理したいと考えているので情報提供に協力願いたい。(浅間教授)

- ・ 第7回会合は、平成24年6月25日(月)10時より開催する予定。

以 上